

Iwatani

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

(見直しに関する注意事項)
将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

2023年11月17日
岩谷産業株式会社

(証券コード 8088)

- 1. 2024年3月期第2四半期 決算実績**
 - 決算ハイライト
 - 連結経営成績（減収分析）
 - 連結経営成績（増益分析）
 - 連結経営成績（セグメント別）
 - セグメント別営業利益分析
 - 貸借対照表（連結）
 - キャッシュ・フロー計算書
- 2. 2024年3月期 通期業績予想**
 - 通期業績予想
 - セグメント別見通し
 - 株主還元について
- 3. 中期経営計画「PLAN27」の進捗**
 - 「PLAN27」の概要（2023～2027年度）
 - 「PLAN27」の進捗（重点施策）

2024年3月期第2四半期 決算実績

2024年3月期第2四半期 決算ハイライト

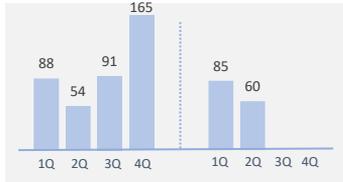
▶ 売上高は減収。LPガス市況要因がマイナス影響となるものの、工業分野向け商品が堅調に推移し、営業利益は増益、過去最高益を更新。

2024年3月期第2四半期 決算概要

- 売上高は、LPガスが輸入価格の低位推移と販売数量減少となったことに加え、二次電池材料の販売が低調に推移したこと等により、減収。
- 営業利益は、LPガス市況要因のマイナス影響があったものの、産業ガス・機械事業を中心に工業分野向け商品が堅調に推移し、増益。
- 通期業績予想：変更なし

売上高	3,942億円	前年同期比	▲190億円 (▲4.6%)
営業利益	145億円	前年同期比	+2億円 (+1.9%)
経常利益	181億円	前年同期比	▲1億円 (▲0.7%)
四半期純利益	120億円	前年同期比	▲5億円 (▲4.3%)

■ 営業利益 四半期推移 (億円)



23/3月期※

24/3月期

※前連結会計年度：企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

本中間決算は、対前年で減収となりましたが、LPガス市況要因のマイナス影響がある中、工業分野向け商品が堅調に推移し、営業利益は増益となり、過去最高益を更新しました。

連結経営成績（減収分析）

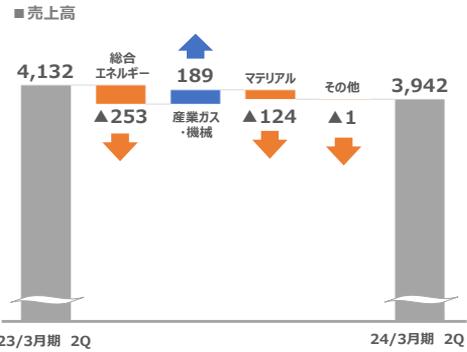
（単位：億円）

	2024/3月期 2Q 実績	2023/3月期 2Q 実績※	増減額 (増減率)	2024/3月期 通期予想	進捗率
売上高	3,942	4,132	▲190 (▲4.6%)	9,070	43.5%
売上総利益	1,009	981	+27 (+2.8%)	—	—
営業利益	145	143	+2 (+1.9%)	450	32.4%
市況要因除く 営業利益	197	137	+59 (+43.1%)	450	43.8%
営業外損益	35	39	▲3 (▲9.8%)	—	—
経常利益	181	183	▲1 (▲0.7%)	503	36.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	120	126	▲5 (▲4.3%)	335	36.0%

※前連結会計年度：企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映

減収要因

- LPガス輸入価格が低位に推移、気温高の影響等により販売数量も減少
- 工業分野向け商品は堅調に推移
- 販売先の在庫調整により二次電池材料の販売減少



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

売上高は、LPガス輸入価格の下落や気温高の影響等でLPガスの販売数量が減少したことに加え、二次電池材料が業界全体での在庫調整に伴い販売が低調に推移した結果、前年同期に比べ190億円、4.6%減収の3,942億円となりました。

売上総利益は、LPガスの市況要因が対前年でマイナス56億円の影響があったものの、工業分野向け商品の販売が堅調に推移し、また、製造・調達コスト増加への対応を行った結果、27億円、2.8%増益の1,009億円となりました。

連結経営成績（増益分析）

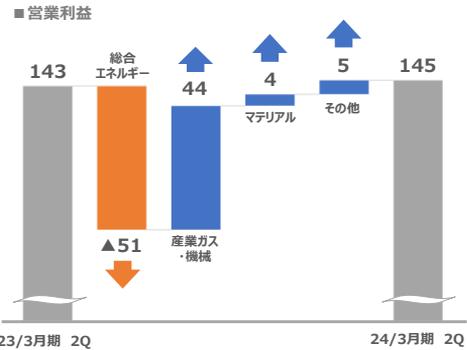
（単位：億円）

	2024/3月期 2Q 実績	2023/3月期 2Q 実績※	増減額 (増減率)	2024/3月期 通期予想	進捗率
売上高	3,942	4,132	▲190 (▲4.6%)	9,070	43.5%
売上総利益	1,009	981	+27 (+2.8%)	—	—
営業利益	145	143	+2 (+1.9%)	450	32.4%
市況要因除く 営業利益	197	137	+59 (+43.1%)	450	43.8%
営業外損益	35	39	▲3 (▲9.8%)	—	—
経常利益	181	183	▲1 (▲0.7%)	503	36.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	120	126	▲5 (▲4.3%)	335	36.0%

※前連結会計年度：企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映

増益要因

- 営業利益は、LPガス市況要因が対前年同期でマイナスとなったものの、工業分野向け商品が堅調に推移し、増益
- 営業外損益は、持分法投資利益の減少、支払利息の増加などにより、対前年同期で減少し、経常利益、四半期純利益は減益



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

販管費は人件費、減価償却費の増加等により2.4億円増加しましたが、営業利益は2億円、1.9%増益の145億円となりました。結果、第2四半期での過去最高益となっています。

営業外損益は、持分法による投資利益の減少や支払利息の増加等により減少し、経常利益は1億円、0.7%減益の181億円となりました。

この結果、四半期純利益は5億円、4.3%減益の120億円となりました。

連結経営成績（セグメント別）

Iwatani

(単位：億円)

	2024/3月期 2Q 実績	2023/3月期 2Q 実績※	増減額	増減率	2024/3月期 通期見直し	進捗率
売上高	3,942	4,132	▲190	▲4.6%	9,070	43.5%
■総合エネルギー事業	1,433	1,686	▲253	▲15.0%	3,980	36.0%
■産業ガス・機械事業	1,268	1,079	+189	+17.6%	2,592	48.9%
■マテリアル事業	1,085	1,210	▲124	▲10.3%	2,202	49.3%
■その他	155	156	▲1	▲1.1%	296	52.4%
営業利益	145	143	+2	+1.9%	450	32.4%
■総合エネルギー事業	▲11	39	▲51	—	180	—
■産業ガス・機械事業	108	64	+44	+69.5%	175	62.0%
■マテリアル事業	62	57	+4	+8.1%	123	50.9%
■その他・調整額	▲13	▲17	+4	—	▲28	—
市況要因を除く営業利益	197	137	+59	+43.1%	450	43.8%
経常利益	181	183	▲1	▲0.7%	503	36.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	120	126	▲5	▲4.3%	335	36.0%

※前連結会計年度：企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ）

前提 ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動

LPガス輸入価格 → リンク → 卸売価格
(中東玉と米国玉で構成)

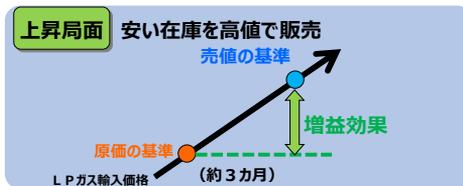
②輸入～販売の期間は約3カ月



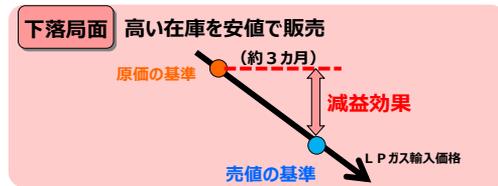
LPガス輸入
価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※ 在庫量・販売時期・販売数量によって実際の業績への影響は変動します



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

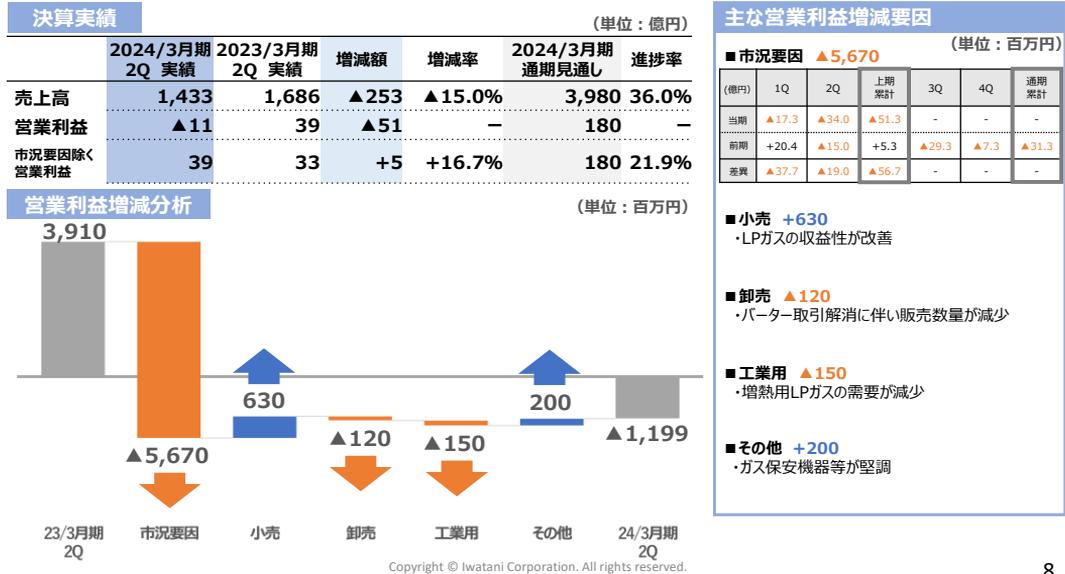
LPガスの輸入価格の変動が、業績に与える影響について、簡単に説明いたします。

当社は、LPガスを中東や米国等から輸入しており、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格を輸入価格に連動させる、価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について、「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで、時間がかかるため、約3カ月前に仕入れた在庫を、販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には、安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には、高い原価の在庫を安く売ることとなります。これらの影響を、「市況要因」と呼んでいます。

セグメント別営業利益分析（総合エネルギー事業）



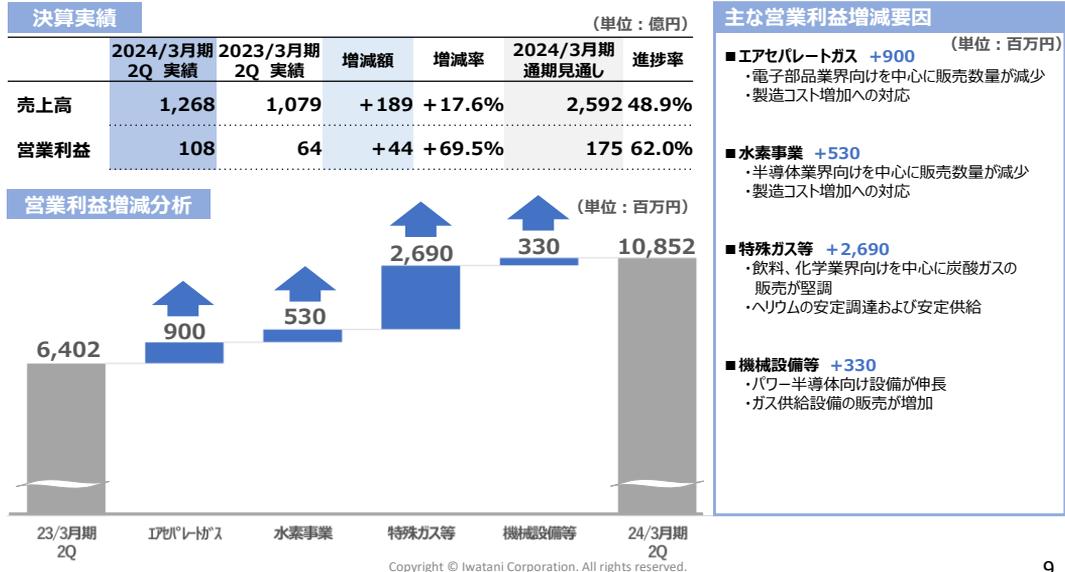
8

総合エネルギー事業についてですが、L P ガス輸入価格が低位に推移したことや、気温高の影響等による販売数量の減少により、売上高は253億円減収の1,433億円となりました。

また、L P ガスの小売部門において収益性が改善したことや、ガス保安機器等の販売が堅調に推移しましたが、市況要因が対前年でマイナス56億円となったことから、51億円減益の11億円の営業損失となりました。

なお、市況要因を除いた営業利益は39億円で、プラス5億円の増益となります。

セグメント別営業利益分析（産業ガス・機械事業）



9

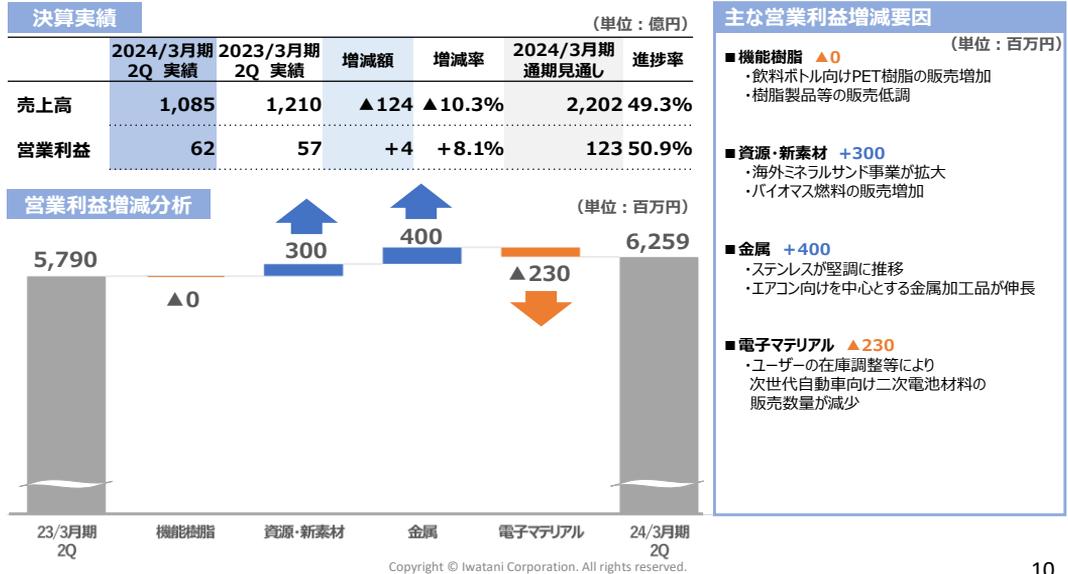
産業ガス・機械事業ですが、エアセパレートガスおよび水素ガスについては、半導体、電子部品業界向けを中心に販売数量が減少しましたが、電力料金の上昇に伴う製造コストの増加への対応に努めたことにより収益性は改善しました。

特殊ガスについては、飲料、化学業界向けに炭酸ガスが堅調に推移したことに加え、ヘリウムは世界的な需給ひっ迫の中、安定供給に努めました。

機械設備は、伸長分野であるパワー半導体向け設備やガス供給設備の販売が増加しました。

この結果、売上高は189億円増収の1,268億円となり、営業利益は69.5%増益の108億円となりました。

セグメント別営業利益分析（マテリアル事業）



10

マテリアル事業は、次世代自動車向け二次電池材料について、販売先での在庫調整の影響等により販売数量が減少したものの、バイオマス燃料や飲料ボトル向けPET樹脂の販売が増加しました。

また、海外でのミネラルサンド事業が伸長し、ステンレスやエアコン向けを中心とする金属加工品も堅調に推移した結果、売上高は124億円減収の1,085億円となりましたが、営業利益は8.1%増益の62億円となりました。

尚、セグメント変更についてですが、昨年度まで事業セグメントの1つであった自然産業事業については、単体の食品事業を一昨年に買収したユーエムシステムに移管し、社名を「イワタニフーズ」としており、連結子会社であるイワタニケンボローとともに、「その他」のセグメントに変更しています。

また、同じく自然産業事業の連結子会社であったイワタニアグリグリーンは、マテリアル事業の連結子会社2社に事業移管しています。

貸借対照表（連結）

■ 売上債権は減少したものの、設備投資の実施等による有形固定資産や投資有価証券等の増加により総資産は増加。

■ 国内・海外での設備投資等に対する資金調達により有利子負債が増加。

（単位：億円）

	2023年 9月末	2023年 3月末	前期末比 (増減額)	主な増減理由・備考
流動資産	2,883	3,031	▲148	売上債権の減少
（有形固定資産）	2,139	2,074	+64	
（無形固定資産）	373	368	+5	
（投資その他の資産）	1,304	1,085	+219	保有株式の時価評価による投資有価証券の増加等
固定資産	3,817	3,528	+289	
総資産	6,701	6,560	+141	
（流動負債）	2,056	2,124	▲67	買入債務の減少
（固定負債）	1,344	1,313	+31	
負債	3,401	3,437	▲36	有利子負債 1,610億円（+215億円） 有利子負債依存度 24.0%
（自己資本）	3,193	3,019	+173	自己資本比率 47.7%
（非支配株主持分）	106	102	+4	
純資産	3,299	3,122	+177	
負債・純資産	6,701	6,560	+141	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

主な財政状態について、ご説明します。

9月末の総資産は前期末比で141億円増加し、6,701億円となりました。

自己資本は、利益剰余金の増加などから、173億円増加の3,193億円となり、自己資本比率は1.7ポイント増加し、47.7%となりました。

一方、有利子負債は、国内外における積極的な設備投資等に対する資金調達のため、前期末比で215億円増加し、1,610億円となり、有利子負債依存度は24.0%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

■ 営業キャッシュ・フローは98億円の収入。投資キャッシュ・フローは、積極的な投資等により298億円の支出となり、結果、フリー・キャッシュ・フローは200億円の支出。

(単位：億円)

	2024年3月期 中間実績	2023年3月期 中間実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	98	▲5	+103
投資キャッシュ・フロー	▲298	▲350	+51
フリー・キャッシュ・フロー	▲200	▲355	+155
財務キャッシュ・フロー	125	366	▲240
換算差額等 ※1	10	24	▲13
現預金等の増減額 ※2	▲63	35	▲98
現預金等の期首残高	332	295	+36
現預金等の期末残高	268	330	▲62

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

12

キャッシュフローについて、ご説明致します。

営業キャッシュフローは、利益や減価償却費等による収入と

法人税等の支払いにより、98億円の収入、

投資キャッシュフローは積極的な投資等により、298億円の支出となりました。

結果、フリーキャッシュフローはマイナス200億円となりました。

財務キャッシュフローについては、借入金の増加などにより

125億円の収入となりました。

2024年3月期 通期業績予想

2024年3月期 通期業績予想

(単位：億円)

	2024/3月期 予想	2023/3月期 実績	増減額	増減率
売上高	9,070	9,062	+7	+0.1%
■ 総合エネルギー事業	3,980	3,932	+47	+1.2%
■ 産業ガス・機械事業	2,592	2,404	+187	+7.8%
■ マテリアル事業	2,202	2,424	▲222	▲9.2%
■ その他	296	302	▲6	▲2.0%
営業利益	450	400	+49	+12.4%
■ 総合エネルギー事業	180	143	+36	+25.9%
■ 産業ガス・機械事業	175	165	+9	+5.7%
■ マテリアル事業	123	126	▲3	▲2.4%
■ その他・調整額	▲28	▲34	+6	—
市況要因を除く営業利益	450	431	+18	+4.2%
経常利益	503	470	+32	+7.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	335	320	+14	+4.6%

・期初予想からの変更：なし
(2023年5月15日公表)

想定レート

為替 125円/\$

L P ガス輸入価格 700 \$ / トン

(2022年度実績)

為替 133.7円/\$

L P ガス輸入価格 725 \$ / トン

配当予想

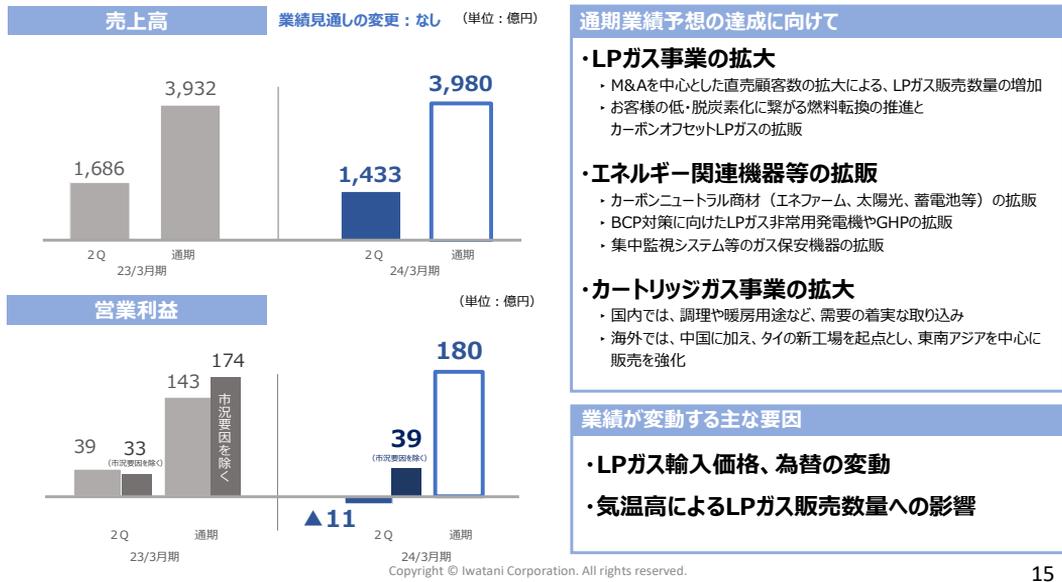
2024年3月期 95円/株

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

14

2024年3月期の連結業績予想としては、
 売上高は、 9,070億円
 営業利益は、 450億円
 経常利益は、 503億円
 当期純利益は、 335億円
 と期初公表の業績予想を変更していません。

総合エネルギー事業の見通し



15

総合エネルギー事業は、
売上高は、3,980億円で1.2%の増収、
営業利益は、180億円で25.9%の増益を予想しております。

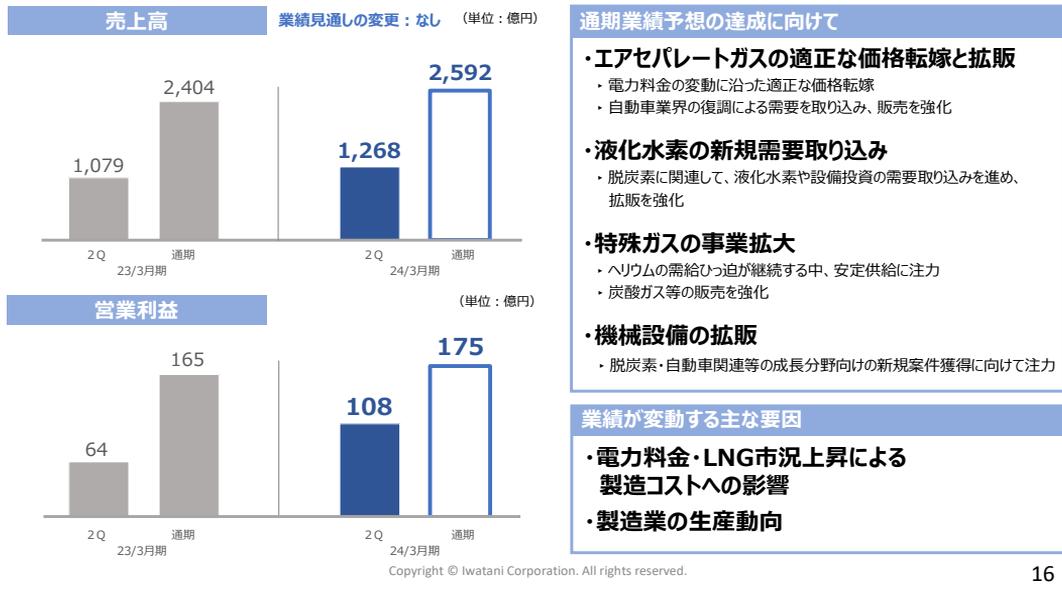
業績予想において市況要因の影響は、見込んでいません。
昨年度実績にはマイナス31億円の市況要因があり、昨年度の
市況要因を除く営業利益との比較では3.2%の増益となります。

市況要因の上期実績はマイナス56億円となりましたが、
LPガス輸入価格が上昇基調にあり、マイナス影響も軽減されると
予想しています。

今後も、LPガス直売顧客数の拡大に向けて、M&A案件を
取り込むとともに、工業用のお客様に、油からLPガスへの
燃料転換を推進するなど、カーボンニュートラルへの移行期における
低・脱炭素ビジネスの取り組みを強化してまいります。

カートリッジガス事業においては、国内需要を着実に取り込むとともに、
海外では、中国に加え、タイの新工場を起点とした東南アジアへの拡販など、
海外市場の強化を図ります。

産業ガス・機械事業の見通し

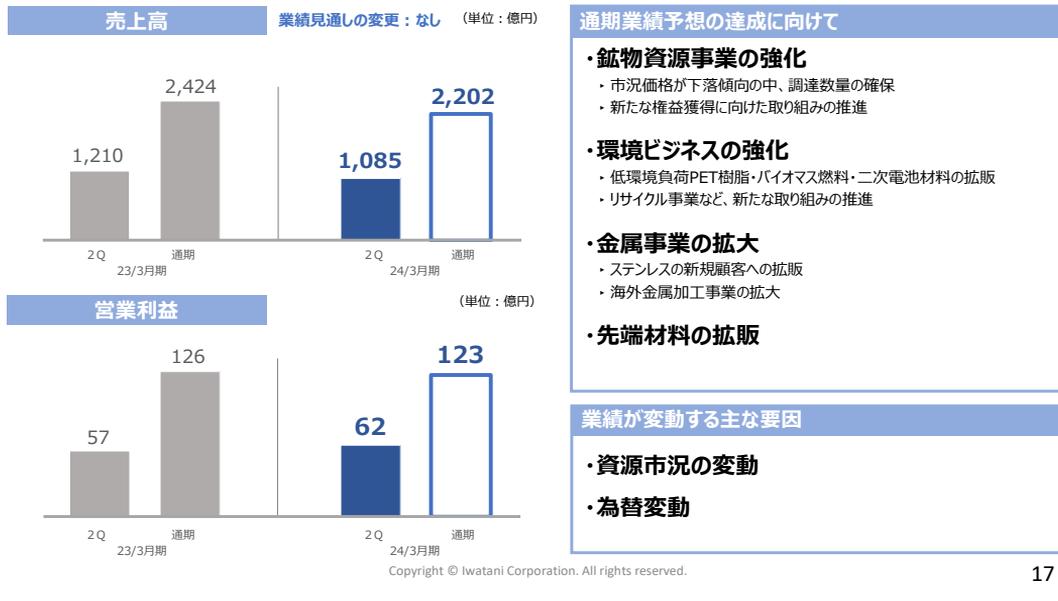


産業ガス・機械事業ですが、
売上高は、2,592億円で7.8%の増収、
営業利益は、175億円で5.7%の増益を予想しています。

電子部品業界の低迷は今後も続く見通しですが、
復調しつつある自動車業界向けの販売や、パワー半導体・脱炭素など、
成長分野へのガスや機械設備の拡販に引き続き取り組みます。
水素事業については、拡大する脱炭素用途の需要に、継続して
対応してまいります。

特殊ガスについては、引き続き、ヘリウムの需給がひっ迫すると
想定される中、安定供給に努めるとともに、飲料、化学業界向けを
中心に炭酸ガスの拡販に取り組みます。

マテリアル事業の見通し



マテリアル事業については、
 売上高が2,202億円で9.2%の減収、
 営業利益は123億円で2.4%の減益を予想しています。

二次電池材料は、取引先での在庫調整が継続し、販売が低迷するほか、
 各種原材料市況も低調に推移する見通しですが、上期好調であった
 PET樹脂、ステンレスなど、主要商品の販売拡大や安定供給に
 取り組んでまいります。

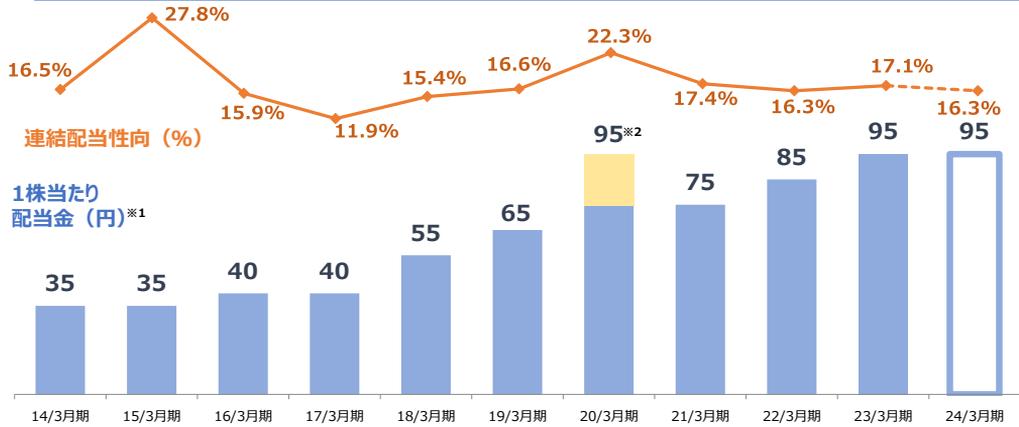
また、資源関連については引き続き安定調達・供給に努めると同時に、
 新たな権益獲得に向けた取り組みを進めてまいります。

株主還元について

▶ 2024年3月期は、1株あたり95円の配当を予定。

配当方針

- ・成長投資への資金配分を優先するも、利益の拡大に応じて着実に増配
- ・2027年度に配当性向20%以上を目標とする累進配当



※1 2014年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額
 ※2 うち記念配当20円含む

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

株主還元について、ご説明いたします。

2024年3月期の配当につきましては、現段階では期初に公表しました通り、前年と同じく1株あたり95円を予定しています。

PLAN27の資本政策では、減配を行わない累進配当を、掲げておりますが、今後も、業績や経営環境を考慮し、適正な利益還元を実施して参ります。

中期経営計画「PLAN27」の進捗

中期経営計画「PLAN27」の概要（2023～2027年度）

テーマ	水素エネルギー社会の実現に向けて	
基本方針	「社会課題解決」と「持続的成長」に向けた事業拡大	
▶ 経営数値目標	▶ 重点施策	
営業利益	650億円	
ROE	10%以上	
ROIC	6%以上	
▶ 資本政策	<ol style="list-style-type: none"> ① 水素戦略 ② 脱炭素戦略 ③ 国内エネルギー・サービス戦略 ④ 海外戦略 ⑤ 非財務戦略 	
5年間累計投資額	4,700億円	
株主還元	配当性向20%以上 累進配当 <small>*市況要因を除く当期純利益ベース 2027年度の目標値</small>	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

PLAN27のテーマは、「水素エネルギー社会の実現に向けて」としており、基本方針は、「『社会課題解決』と『持続的成長』に向けた事業拡大」を掲げています。

経営数値目標については、利益目標を「営業利益650億円」、収益性目標を「ROE10%以上」「ROIC6%以上」とし、5年間累計での投資額は、4,700億円を計画しています。

PLAN27の重点施策として、「水素戦略」、「脱炭素戦略」、「国内エネルギー・サービス戦略」、「海外戦略」、「非財務戦略」の5つを掲げて、取り組みを進めています。

中期経営計画「PLAN27」の進捗（重点施策）

水素戦略

つくる

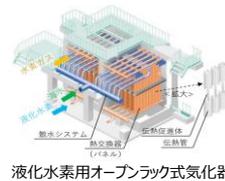
- ・ 豪州・大規模グリーン水素サプライチェーン構築に向けた基本設計作業開始



豪州の水素製造拠点イメージ

はこぶ

- ・ 三菱重工業(株)との液化水素昇圧ポンプの開発・販売の覚書締結
- ・ 住友精密工業(株)との液化水素用オープンラック式気化器の共同開発契約の締結
- ・ トーヨーカネツ(株)との大型液化水素貯槽に関する研究開発の助成金交付決定



液化水素用オープンラック式気化器

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

重点施策別の進捗状況について、ご説明致します。

水素戦略については、豪州クイーンズランド州における再生可能エネルギー由来のグリーン水素を大規模製造するプロジェクトについて、最終投資判断に向けた基本設計作業を開始しました。

このプロジェクトは、州政府所有のエネルギー・インフラ企業Stanwell社など5社共同で進めています。

現在、川崎重工業、I N P E X等とともに進めている、国のグリーンイノベーション基金を活用したプロジェクトと合わせて、CO₂フリー水素サプライチェーンの構築に向けて、取り組んでまいります。

また、水素供給システムの構築に向けて、関連機器に関して、他社との連携を進めています。

大型の液化水素気化器については住友精密工業と、液化水素圧縮機については三菱重工業と、共同開発を進めています。

また、大型の液化水素貯槽では、トーヨーカネツとの実用化に向けた研究開発が、N E D Oの助成金の対象に採択されました。

今後も、水素エネルギー社会実現に向けて、必要となる機器設備、技術の開発を進めてまいります。

水素戦略

つかう

- ・ 国内初、水素燃料電池船の旅客運航が決定し、建造開始
- ・ 国内初、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアに水素ステーションをオープン



大阪・関西万博で運航予定の水素燃料電池船



伊ワタニ水素ステーション足柄SA

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

水素の需要拡大に向けては、モビリティ分野の用途拡大を見据え、大阪・関西万博において国内初となる水素燃料電池船の旅客運航を行うことを決定しました。

水素燃料電池船は、走行時にCO₂を排出しないだけでなく、臭い、騒音、振動などが無い、快適な船となります。期間中は、水素関連の国際会議や各種セミナー、セレモニーの開催などを企画し、「動くパビリオン」として最大限、有効に活用していきたいと考えています。

水素ステーションでは、東名高速道路の足柄サービスエリアに、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアでは国内初となる水素ステーションを開業しました。

また、トラック・バスなどの大型商用車に対応可能な大規模化が求められており、コスモ石油との合同会社で、京浜トラックターミナルでの建設を来年春の開所に向けて進めるとともに、新たに、東京都江東区の新砂と有明の2カ所にステーション開設を計画するなど、整備を進めています。

なお、LPガスと産業ガスの安定供給に欠かせない配送車に関して、東京都と福島県の拠点に、燃料電池トラックを、4台導入しました。水素を動力源としたシリンダー配送は業界初で、今後も追加導入を予定しており、サプライチェーンにおけるCO₂削減に向けた取り組みを、これからも推進していきます。

中期経営計画「PLAN27」の進捗（重点施策）

脱炭素戦略

- ・ 高効率ガス給湯器導入によるCO2削減効果を環境価値化し、J-クレジット制度の認証取得



CO2削減効果の価値化に向けた取り組みイメージ

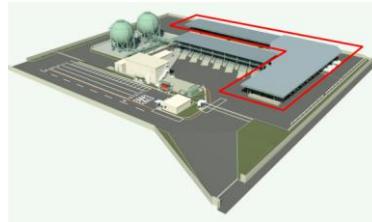
- ・ 再生可能資源を利用したバイオマス原料を含む汎用樹脂が国内樹脂加工メーカーで採用



バイオマス汎用樹脂を使用したカトラリー製品

国内エネルギー・サービス戦略

- ・ 根岸液化ガスターミナル内にLPガスシリンダー充填所の建設開始



LPガスシリンダー充填所 完成予想図(赤枠内)

LPガス直売顧客数（2023年9月末）

111万世帯
(対23年3月末比+1万世帯)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

23

脱炭素戦略については、一般家庭等への太陽光発電や、高効率ガス給湯器の導入により得られるCO₂削減分について、国のJ-クレジット制度を活用して、価値化する取り組みを進めています。

また、再生可能資源を利用したバイオマス原料を含む汎用樹脂が国内樹脂加工メーカーに新たに採用されるとともに、バイオマス燃料については、長期契約の締結などにより販売数量が拡大するなど、環境商品の拡充を図りました。

国内エネルギー・サービス戦略では、LPガスの直売顧客数は、3月末と比較して1万世帯増加し、9月末時点で111万世帯となり、収益拡大に寄与しました。

また、根岸液化ガスターミナルにおいてシリンダー充填所の建設に着手し、関東・首都圏エリアでのLPガス供給体制の強化および合理化に向けて取り組みを進めました。

中期経営計画「PLAN27」の進捗（重点施策）

海外戦略

- ▶ 中国でのエアセパレートガス製造設備拡張
- ▶ 中国内陸部にヘリウムセンターを建設



エアセパレートガス製造設備(嘉興市)



ヘリウムセンター(孝感市)

- ▶ タイにカセットこんろ製造工場を設立



カセットこんろ製造工場(タイ)

非財務戦略

- ▶ TCFDのシナリオ分析結果を開示

シナリオ	リスク	機会
多気化シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動によるエネルギー需要の増加により、天然ガス供給不足のリスクが生じる。 気候変動によるエネルギー価格の急騰によるコスト増のリスクが生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及によるエネルギーコスト削減の機会がある。 気候変動対策によるエネルギー効率向上の機会がある。
脱炭素シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動対策によるエネルギー需要の減少による収益減のリスクが生じる。 気候変動対策によるエネルギー価格の急落によるコスト削減の機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及によるエネルギーコスト削減の機会がある。 気候変動対策によるエネルギー効率向上の機会がある。

シナリオ分析の結果(弊社HP掲載)

- ▶ 企業内大学(イワタニ技術・保安大学)を開設



イワタニ技術・保安大学

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

24

海外戦略では、中国・華東地域の旺盛な需要を捉え、嘉興市の自社工場において、水素充填設備の新設に加え、エアセパレートガス製造設備の拡張を行いました。

需要が拡大しているヘリウムについては、中国の内陸部にある孝感市に中国で2カ所目となるヘリウムセンターを開設し、10月から稼働を開始しました。

また、経済成長が続く東南アジアでは、タイに新設したヘリウムセンターに加え、金属加工事業の製造機能拡張やカセットこんろの製造工場を立ち上げるなど、更なる収益拡大に取り組んでおります。

非財務戦略では、気候変動に係る事業への影響に関して、シナリオ別にリスクと機会を評価し、分析結果を公表しました。

また、当社のコアビジネスである、ガス&エネルギーの事業基盤を支える「技術」や「保安」に関する知識・能力の向上を目的に、企業内大学として「イワタニ技術・保安大学」を開設しました。

保安・技術にかかる提案力・現場対応力を向上し、今後の事業拡大・推進につながる人材育成を目指しており、LPガスや、産業ガス、そして水素を、安全に供給する体制を強化し、PLAN27で掲げた技術戦略の実行につなげていきます。

Iwatani

<お問合せ先>

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL : 03-5405-5706 FAX : 03-5405-5776

Webサイト : <https://www.iwatani.co.jp>